

Topic 01 大学連携施設の本設計が始まります

都留市複合型居住プロジェクトの大学連携施設の詳細設計が始まります。全国各地から集まった学生たちが、地域の中での交流をとおして事象や活動に直接触れ、機械的な暗記とは異なる「生きた学び」を体験し、学びを深めることのできる空間にしたいと考えています。そのために「楽しむ」、「学ぶ」、「つながる」を施設計画のポリシーとし、これまで地域交流研究センターが推進してきた「都留フィールド・ミュージアム」の理念が体現できるような施設を目指します。右の写真の敷地の一部に大学連携施設が建設される予定です。



Topic 02 副専攻「フィールド・ミュージアム研究」(令和6年度開始)について

全学共通副専攻として、地域交流研究センターを主体として開講する副専攻プログラムが令和6年度から始まります。この副専攻は、地域交流研究センターが蓄積してきたフィールドや人間関係を基礎として、実践的な知識だけでなく地域を理解のためのさまざまな方法や新しい交流や活動を作るためのスキルを身につけることなどを目的とするプログラムです。右の写真は、1980年代に都留市で初めてムササビ観察会を開催したところのようすです。地域でのこれまでの諸実践や考え方もこの副専攻に生かしていきます。



Topic 03 キャンパスに新たな仲間が加わりました

モリアオガエルというカエルをご存じですか？日本固有種で、本州と佐渡島に分布しています。メスは80mmほどにもなります。ふつうカエルの仲間は水中に産卵しますが、このモリアオガエルは、水面に張り出した木の枝などに泡で包まれた卵塊を産みつけます。場所によっては絶滅危惧種や天然記念物にも指定されています。今年、地域交流研究センターに面した庭にモリアオガエルが卵を産みました。キャンパスに新たな仲間が加わりました。



施設のご案内 地域交流研究センターは「驚異の部屋」

地域交流研究センターには展示スペースがあります。大学周辺にある自然物など実物資料にじかに触れ、野外に誘うことを目的とした展示で、本学の学生もその製作に参加しています。機関誌『フィールド・ノート』を発行する編集室もあります。ここでは、学生がみずから地域に出て、観察や取材をし、表現するという主体的な取り組みをしています。学科に関係なく参加できます。



「ムササビライブカメラ」を設置しています

本学のキャンパスにはムササビが暮らしています。自然との共生を実地に学べるフィールドです。ムササビの生態などを誰でも観察できるようライブカメラを設置し、本学のHPで公開しています。



オープン・アーカイブを運営しています

地域の写真資料や標本を収集しています。教育実習や授業で活用できるよう管理・運営をしています。これらの資料をもとに、教員・学生・市民が協働して地域の教材や授業の開発にも取り組んでいます。



都留文科大学前駅舎で展示をしています

富士急行線都留文科大学前駅の駅舎は、「都留フィールド・ミュージアム」の分館です。学生と市民が地域の自然や文化について共同で研究しその成果を展示しています。

TSURU FIELD MUSEUM NEWS

vol. 04
2023 July
本号は創刊号の改訂版です



地域交流研究センターとは

地域交流研究センターは、都留文科大学と地域をつなぐさまざまな活動と研究に取り組むための拠点です。地域は、人びとが生まれ育ち、自然とかかわりながら暮らし、文化と歴史を刻みつけている現場です。そこには、自然・人間・社会のあり方を問いなおす手があります。地域交流研究センターは、活動を通して、地域全体を博物館（ミュージアム）ととらえる「都留フィールド・ミュージアム」構想を推進していきます。

都留フィールド・ミュージアム

地域交流研究センターでは、地域そのものを博物館（ミュージアム）に見立て、身近な自然や文化に親しみ、じかに触れ、学びあう「都留フィールド・ミュージアム」構想を推進しています。人間探究を掲げる都留文科大学にふさわしいこのような取り組みを受け継ぎ、発展させていくことを目的に地域交流研究センターが発足しました。

地域交流研究センター
〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1 4号館1階
☎0554-43-4341(内線606) ✉ckouryu@tsuru.ac.jp
◀左のロゴは、人と人、人と自然の結びつきをイメージして制作しました

都留文科大学 WEB | 都留文科大学 twitter | 地域交流研究センター twitter

地域交流研究センター

地域交流研究センターには、「自然共生研究部門」、「共生教育研究部門」、「まちづくり研究部門」、「グローバル交流研究部門」があります。この4つの部門では、私たちのくらしや自然との共生のありかたなど地域の現代的な課題に即して、自然科学や人文・社会科学といった領域を総合して取り組んでいます。それとともに、地域を担う次代の主体を育成することを目的としたさまざまな教育・研究活動を行なっています。気軽にお問い合わせください。

自然共生研究部門

「地域の自然と暮らし」をテーマに、おもに①動植物の生態研究、②水循環と地下水流動（水文環境）の研究、③都留の農林業の持続に関する研究、④地域の自然と文化の保全活動などに取り組んでいます。またキャンパスでの緑化活動や地域の小学校での放課後実験教室、自然観察会などにも力を入れています。学科や学年に関係なく参加できるプログラムもあります。



上の写真は、キャンパスで出会うムササビとカワナデシコです

共生教育研究部門

● 地域情報教育分野

地域情報教育分野は、学校現場に導入が進んでいる情報技術や、各学校での情報教育をサポートしていく分野です。教員の情報技術スキルの向上のためのサポート、情報教育の教材や授業づくりを支援します。



● 地域美術教育分野

地域の教育機関とともに造形表現活動をおこないます。本学学生の皆さんと地域の子どもたちが造形表現を通して交流し、互いに想像力を高め合います。活動参加者が造形表現を楽しむことのできる活動にするためには、内容に関するアイデアを出し合って話し合ったり、模擬活動等の事前準備が欠かせません。様々な内容の活動を計画して、子どもたちとともにかたちや色を体いっぱい感じて楽しい活動にいきましょう。



● 地域インクルーシブ教育分野

この分野では、健常／障害、世代などの境界を超えて混じり合う「まち」づくりを念頭に、社会福祉協議会などの地域団体と連携しつつ、週末の居場所づくり（通称：「クロボ」）の活動やキャリアデザインワークといった活動を行っています。毎回、学生・市民のボランティアを募っていて、学科・所属にかかわらず参加を受け付けています。



● 社会教育分野

社会教育分野では、大学の教室を飛び出して、都留市内にあるカフェでお茶を飲みながら、地域の方々、本学の教員や学生が和気あいあいと多様なテーマで語り合う「つるぶんcafé」を企画・運営しています。カフェで取りあげて欲しいテーマも随時、募集しています。また、子どもの地域学習にかかわる調査・研究や、食育をテーマとした活動もしています。



まちづくり研究部門

まちづくり研究部門では、富士急行線谷村町駅舎を活用し、地域と大学生との交流・学び・まちづくりの拠点にしようと、小学生から高校生までの放課後の居場所づくり「ぶらっとはうす」を2018年に開始しました。また、都留市・富士急行株式会社と連携し、市内に新しい観光を創出する観光ゼミにも取り組んでいます。



見出し横のロゴについて：ニホンリスがクルミの実を食べた痕をモチーフにしています。こうした食べ痕も動物のくらしを知る重要な手掛かりになります。

グローバル交流研究部門

地域の自然と文化の魅力を学び、また本学の留学生や多様な人びととの交流から地球規模の視野を育むことで持続可能な社会のあり方を共に考えることをテーマにしています。留学生を対象に学生がガイドをして自然との共生のあり方を考える「ムササビ観察会」などを開催しています。学科・学年に関係なく参加できます。写真は、ムササビが暮らす神社での観察会の様子です。



地域交流研究センターのそのほかの事業

● 地域貢献活動

「市民公開講座」、「子ども公開講座」、「名画座（映画上映）」など、大学教員の専門分野を活かしながら、子どもから大人までを対象とした講座を数多く開催しています。また、年に1度、地域のさまざまな人びとが集い、相互の交流を重ねる目的で「地域交流研究フォーラム」を開催しています。写真は、「子ども公開講座」の様子です。



● 地域交流研究教育プロジェクト

本学の教員がその持ち味を活かし、地域交流活動の観点から必要な研究・教育を展開するためのスタートアップ事業として位置づけられています。これまで地域の小学校での理科の実験授業や食育、農業をテーマとした実践などに取り組んできました。本学の教職員、学生だけでなく、地域の教員の参加により幅広い地域交流活動の可能性を切り拓くことを目的としています。



● 学部共通科目

本学の長い歴史のなかで築いてきた地域の人間関係やフィールドをもとに、自然や文化にじかに触れ、学びを深めることを特色とした共通教育科目群です。現在は、「地域交流研究Ⅰ～Ⅳ」を開講していますが、令和6年度からは、地域交流研究センターが推進する「都留フィールド・ミュージアム」の理念と実践を反映した「フィールド・ミュージアム入門」「フィールド・ミュージアム研究Ⅰ～Ⅲ」「フィールド・ミュージアム演習Ⅰ・Ⅱ」を開講予定です。（4頁を参照してください）



● 出版・広報活動

地域交流研究センターの活動の詳細をまとめた年報『地域交流研究』を年1回発行しています。本センターの活動を幅広く知っていただくためにニュースレターの発行も始めました。このニュースレターは、本学のオープンキャンパスや入学式、卒業式でも配布しています。本学の学生が編集し発行している機関誌『フィールド・ノート』も創刊から20周年を迎え、全国の多くの読者に届けられています。これらは地域交流研究センターでご覧いただけます。本学のホームページでも活動のご案内や報告をしています。



● ボランティア事業部

ボランティア事業部では、都留市社会福祉協議会と連携のもと、趣味や特技などを活かして地域ボランティアに参加したい学生向けに、登録制度を行っています。希望する内容のボランティアニーズが生じたときに登録学生に連絡するシステムです。また、ボランティアに関心のある学生同士がつながる場として、「文大ボランティアひろば」を開催しています。

